

総ビリルビン		511000			
		担当部署			
TB		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		緊急対応(24 時間)			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤	8	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			

生物学的基準範囲		0.4-1.5mg/dL 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
0.4	1.5	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>正常人においては 1 日 250-300mg のビリルビンが生成されるが、そのうち約 70%は老化赤血球のヘモグロビンより、10-20%は骨髄の無効造血より、約 10%は肝のヘム蛋白より、主として肝臓と脾臓の網内系細胞で作られる。生成された非抱合ビリルビンは肝に運ばれグルクロン酸抱合され抱合ビリルビンとなり胆汁中に排泄される。</p> <p>血清ビリルビンとしては、非抱合ビリルビン、抱合ビリルビン、デルタ(δ)ビリルビンが存在するが、通常の臨床検査では総ビリルビン、直接ビリルビン、間接ビリルビンが測定算出される。正常者では血中のビリルビンの大部分は間接ビリルビンである。血清中の総、直接、間接ビリルビンの測定は、肝胆道疾患の診断、経過観察、重症度や予後の判定、黄疸・貧血の鑑別に用いられる。</p> <p>日本臨床第 7 版 765,2009</p>				